

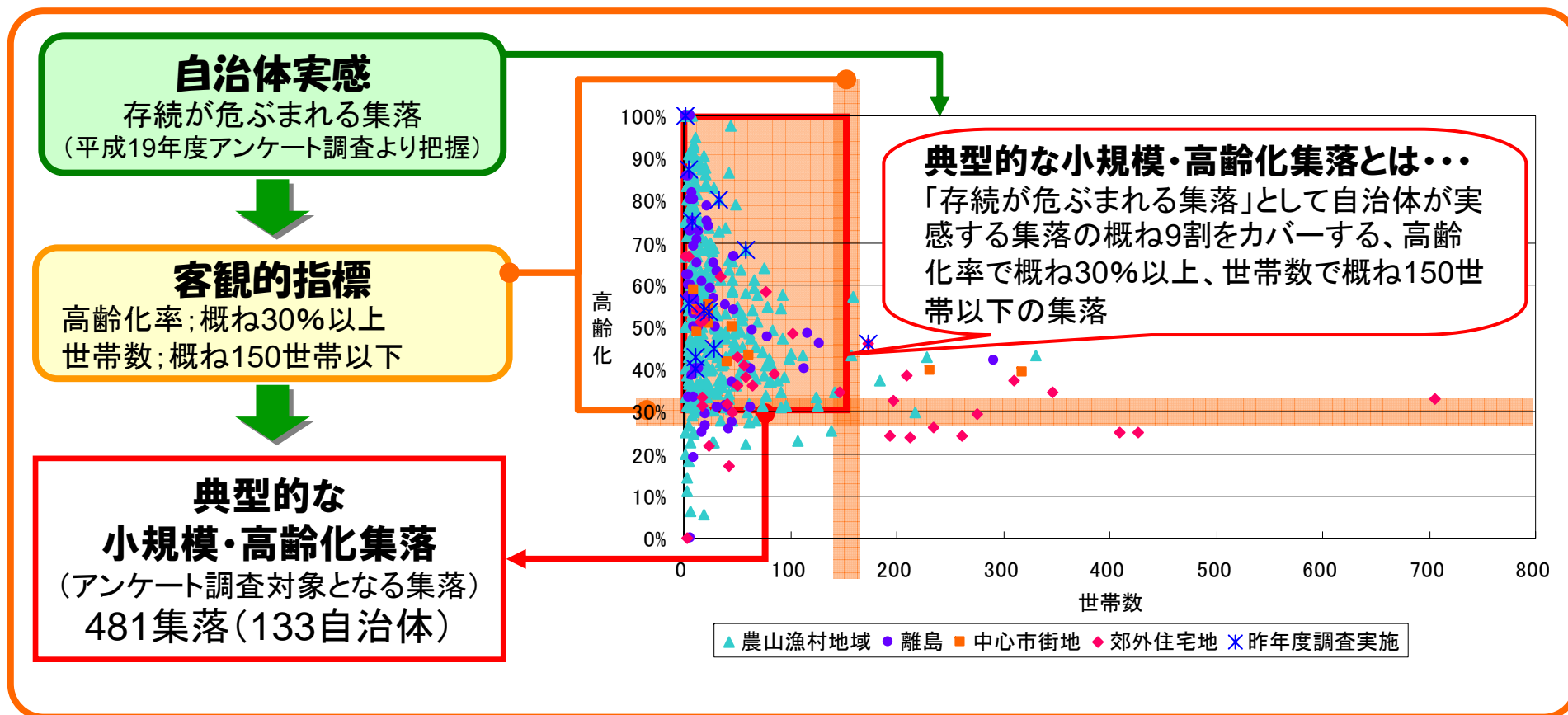
調査内容

アンケート調査

1)集落アンケート調査の対象となる集落の考え方

- 平成19年度に自治体を対象として、自治体が認識している存続が危ぶまれる集落の実態を把握した。
本調査では**集落を対象として、集落住民が抱えている不安や集落元気づくりへの取り組み意欲**を把握する。
- 集落機能の実態は、統計的な資料のみでは把握できないことから、「**存続が危ぶまれる集落**」と考えた自治体の実感を**重視**するとともに、**客観的指標(高齢化率、世帯規模)**も加味し、典型的な小規模・高齢化集落を対象とする。
 - ・自治体実感⇒平成19年度調査で回答のあった、自治体が「**存続が危ぶまれる集落**」と考えた集落(146自治体※)
 - ・客観的指標⇒**高齢化率で概ね30%以上、世帯数で概ね150世帯以下** (特に中山間地域において、自治体実感からあげられた集落を幅広くカバーする範囲として設定。)

※H19年調査時。現在は合併により145自治体。



2)集落アンケート調査の方針

- 典型的な小規模・高齢化集落における即地的な実態の把握を目的とする。
 - ◇集落アンケート；集落の安心につながる居住継続への不安、集落元気づくりへの取り組み意欲、集落の元気につながる活用可能な地域資源
 - ◇自治体アンケート；集落機能の基礎的情報、外部支援の可能性と意向

アンケート調査の対象

- 小規模・高齢化の進む典型的な集落(481集落)と当該集落を有する133自治体

集落アンケート

- 集落活動の実態の把握
- 元気づくりへの取り組み意欲を把握



より具体的な集落に居住する人々の暮らし・生活の維持の実態を把握



自治体アンケート

- 集落の基礎的情報の把握
- 集落支援への協力意向を把握

目的① 集落の安心

集落共同活動、
居留意向と居住継続の不安

設問① 居留意向と居住継続上の課題

- 集落共同活動の実態
- 集落居住の継続意志、居住継続にあたっての不安事項(医療、共同作業、農林漁業、公共交通等)

目的② 集落の元気

活用可能な地域資源

設問② 活用可能な地域資源や残したい地域資源

- 活用可能な地域資源等の把握(景観や食材、伝統芸能の他、祠、習慣、空き屋、遊休農地、放棄山林、等)

目的③ 取り組み意欲

集落元気づくりへの取り組み

設問③ 集落元気づくりへの取り組み意欲等

- 集落元気づくりの取り組みへの意欲やアイデア
- 他出者や大学等外部組織・人材とのつながりの必要性

目的① 基礎的情報把握

集落機能維持にかかわる
基礎的情報

設問① 対象集落の生活機能・資源

- 交流・コミュニティの状況(集会施設、学校施設等)
- 生活サービスの状況(社会基盤、公共交通、医療福祉、商業施設等)

目的② 協力意向等の把握

自治体の協力意向
外部支援の可能性

設問② 集落元気づくりへの協力意向等

- 集落元気づくりの取り組みへの自治体の協力意向
- 集落元気づくりの取り組みにあたってのアイデアの提案
- 対象集落における集落単位見直しの予定

先進事例調査

1)「集落元気づくり」イメージ

「集落元気づくり」は、住民発意の「安心・元気が出る取り組み」とする。

取り組みの視点

○安心⇒域外との連携や支援も受けつつ、住み続けていく上での不安を解消する。

○元気⇒集落に居住する人々が地域に賦存する資源を活かして、域外の人々と交流するなど、元気向上を図る。

集落元気づくりの取り組み イメージ

集落にある珍しいもの
(祭り、花、生物、名水、
遺跡)を活用して都市住
民と交流したい

農地や山林の荒廃を食い止めたい

空き家を活用して他の地域の
人たちに自分たちの暮らしを
体験させたい

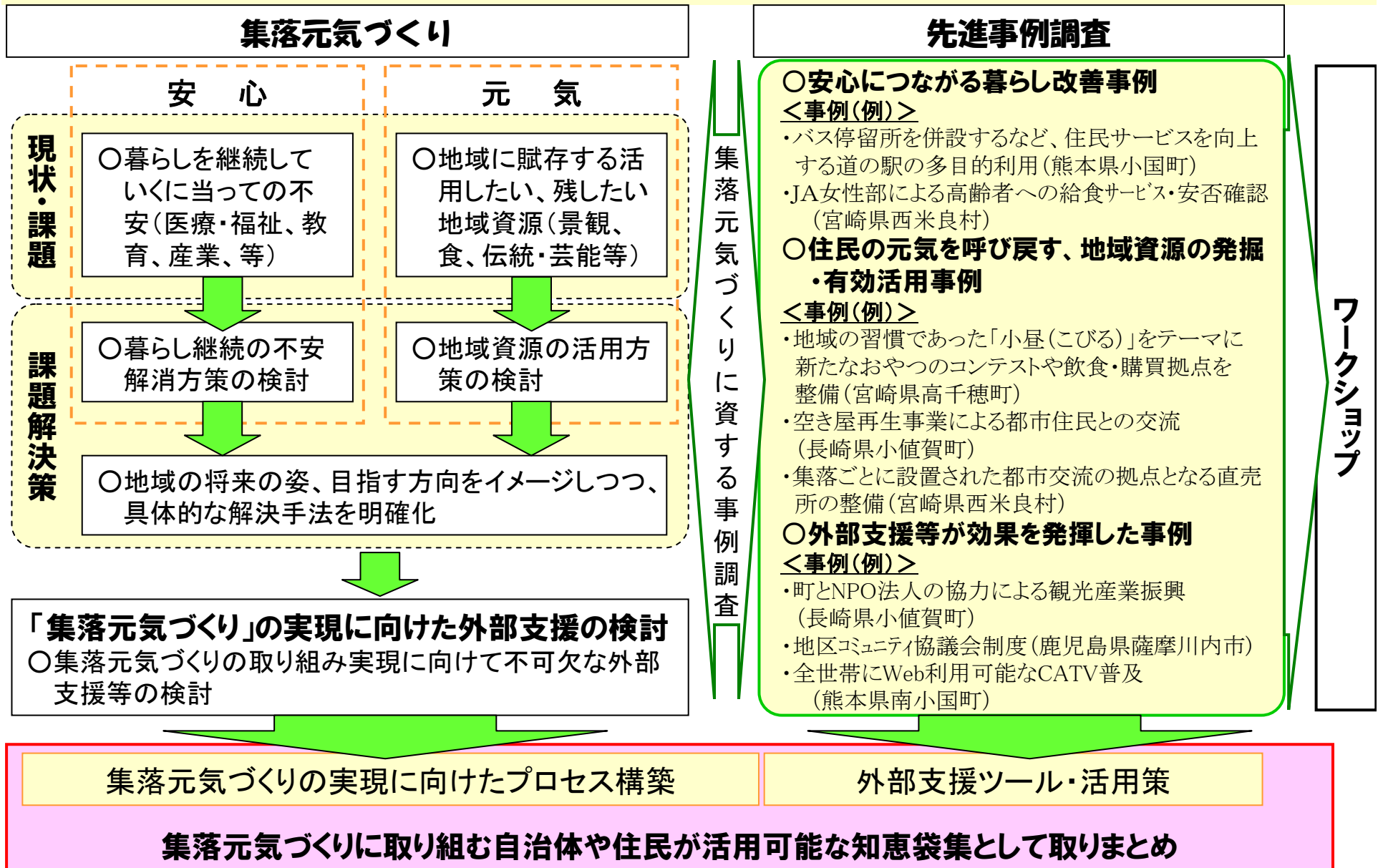
昔やっていた祭り・芸能
を出て行った人たちも呼
んで残していきたい

自分の家の自慢の品を持ち寄って
朝市を定期的にかきたい



2)先進事例調査の考え方

- 「集落元気づくり」の取り組み実現に資する事例を抽出・整理し、ワークショップにおける検討において活用
- 結果は、知恵袋集として取りまとめ、自治体や住民の「集落元気づくり」の取り組みへ活用



ワークショップ

1)ワークショップ対象地の選定の考え方

○目的①

住民発意による「集落元気づくり」を即地的に検討

○目的②

「集落元気づくり」を通じて、有用な地域資源の発掘と支援ツール・活用策を検討

○目的③

外部支援者(他出者,大学,地元事業者,NPO,行政等)の協働体制による支援方策を検討



観点①

集落元気づくりへの 取り組み意欲

○九州圏における典型的な小規模・高齢化の進む集落へのアンケート結果等に基づき、集落元気づくりへの取り組み意欲を把握

観点②

集落元気づくりの 実現性

○集落アンケート調査から、集落の問題、地域資源の賦存状況、取り組みへの提案内容等を総合的に把握

観点③

外部支援など係わりの 継続性

○取り組み検討後の自治体や外部支援等の継続的な係わりの可能性を把握



ワークショップ対象地を委員会により選定(1箇所)

○ワークショップ対象地は、平成19年度調査や統計情報、集落アンケート調査による実態把握に基づき、九州圏における典型的な集落の中から委員会により1集落を選定する。

2)ワークショップの運営方針(案)

【ワークショップの内容】

○集落の現状と住民の意向把握を目的とした「**集落点検***」と、住民発意の「**集落元気づくり**」の検討を行う。行政はそのサポートをするとともに、実現に向けた支援策の検討を行う。

【ワークショップ活用の効果】

○①集落のおかれている現状の認識・課題の共有化、②地域資源の再発見、③話し合いの場づくりによる集落活性化、④地域住民の合意形成、⑤外部人材との交流 といった効果が期待される。

【ワークショップの運営体制】

○外部支援者(他出者、学識者、地元事業者、NPO、行政等)の存在や参画意向を把握の上、運営体制を決定する。

※集落点検では、集落の住民を対象として、他出者等の支援の状況、集落機能維持の実態を把握する。

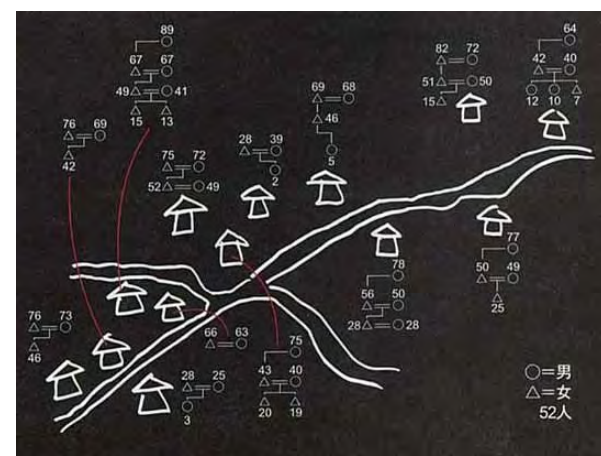
ワークショップの検討イメージ



①集落について語ろう
(全住民参加による集落元気づくり)



②現状の問題を見てみよう
(集落点検の実施)



③自分たちの将来を予測しよう
(集落の家族、人に焦点をあてた点検)